

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
小学校 国語科 編 ① 概要

校種・学年	小学校・1学年	教科等	国語科
単元名 教材名	せつめいする 文しょうを よもう 「じどう車くらべ」 せつめいする 文しょうを かこう 「じどう車ずかんをつくろう」		
単元の目標	(1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 <span style="float: right;">〈知識及び技能〉(2)ア</span> (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 <span style="float: right;">〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア</span> (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 <span style="float: right;">〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ</span> (4) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を 考えることができる。 <span style="float: right;">〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)イ</span> (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に 思いや考えを伝え合おうとする。 <span style="float: right;">〈学びに向かう力、人間性等〉</span>		
単元で取り上げる 言語活動	自動車の仕組みを説明した文章を読み、分かったことを「じどう車カード」に書く。 <span style="float: right;">(関連：言語活動例 B(2)ア・C(2)ア)</span>		
本時のねらい	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 <span style="float: right;">〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ</span>		
本時の評価規準	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 <span style="float: right;">【思考・判断・表現】</span>		

## 事例の概要(見どころ)

国語科は、「言語能力」を育成する中心的な役割を担う教科です。そのため、「言語活動を通して、指導事項を指導する単元展開」が授業づくりにおいて非常に重要になります。

本事例は、児童が、教材「じどう車くらべ」で身に付けた読み方を、自分が選んだ自動車について調べる（自動車図鑑を読む）際にも発揮し、調べた内容を、進んで「じどう車カード」にまとめられるよう、「読むこと」と「書くこと」の指導事項を扱う“複合単元”として単元を計画した事例です。

「読むこと」の学習と「書くこと」の学習が密接に関連し、単元の学習が進むにつれて、徐々に「書くこと」の学習に移行する単元計画を構想したとともに、その単元計画全体に「1年〇組 オリジナルじどう車ずかんをつくろう」という言語活動を設定し、児童が課題意識や必要感をもって、学習することができるようにしています。

また、学習用端末を発達の段階に考慮しながら「教材等を読み、重要な語や文を考えて選び出す場面」・「読み取った内容をまとめ、確認する場面」で効果的に活用しています。

※本資料の「小学校 国語科 編 ② 指導展開」では、1単位時間の展開部分だけでなく、複合単元計画の具体的な内容と立案の際のポイントも示してあります。

発行：令和6年4月  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



# P・I・A シート

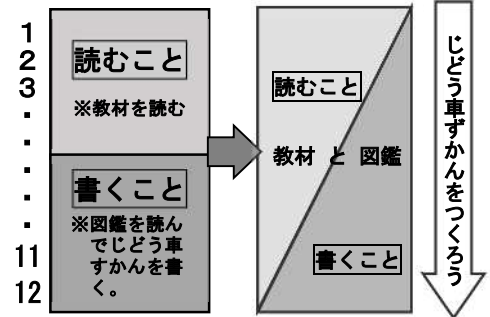
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 小学校 国語科 編 ② 指導展開

## 1 「読むこと」と「書くこと」の複合単元における「指導と評価の計画」(全12時間)

### 🔦 本事例における単元計画のポイント①：指導の計画 🔦

本事例では、「読むこと」の学習と「書くこと」の学習が密接に関連し、単元が進むにつれて、徐々に「書くこと」の学習に移行する単元計画により、児童が無理なく、「読むこと」で身に付けた力を「書くこと」の学習で発揮できるよう工夫しています。そのため、扱う資料を「教科書の教材」と「図書館資料(図鑑)」の2つとし、単元の4時間目に「今の力で書く」時間を設ける等の工夫もしています。

さらに、単元計画全体に「1年〇組 オリジナル じどう車ずかんをつくろう」という言語活動を設定したことによって、単元計画が「課題解決をしていくための学習過程」となり、児童の「粘り強い取組を行う姿」や「自らの学習を調整する姿」が一層見られるようになっていきます。この効果は、「主体的に学習に取り組む態度」の適切な評価にもつながります。



### 🔦 本事例における単元計画のポイント②：評価の計画 🔦

具体的な単元計画を構想したあとは、単元のどの段階で、どの評価規準に基づいて評価するのか、評価場面を精選して決定することが重要です。(実現状況を把握できる段階で行うため、評価を行わない時間もあります。その際は、児童の学習状況を把握し、指導改善につなげることを大切にします。)

本事例では右記の6つの評価規準を12時間のどの段階で評価するのか、大変よく精選されています。「指導と評価の一体化」については、引き続き充実・改善が必要であり、授業を構想する際、「指導の計画」だけに留まらず、「評価の計画」まで考えることが重要です。そして、授業を行う際は、設定した評価規準を授業内で確実に見取り、評価結果を「教師の指導改善」・「児童生徒の学習改善」に生かしていくサイクルを確立していきましょう。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。(22ア)	① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1ア) ② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選んでいる。(C1イウ) ③ 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1イ)	① 進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿って自動車の仕組みを説明した文章を読んでいる。 ② 粘り強い事柄の順序に沿って簡潔な構成を考えて、「じどう車カード」を書いている。

この6つの評価規準を12時間の中の「どの時間で、何回評価をするか」

### 🔦 本事例における単元計画のポイント③：系統性を意識した指導 🔦

本事例では、教師が1年間で扱った教材や既習事項を生かして学ぶよう、意図的に声かけや想起をさせています。系統性を明確にした指導は国語科で身に付けさせたい資質・能力の効果的な積み上げにつながります。

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<p>がくしゅうけいかくを たてよう。</p> <p>○「はたらく車」の歌の動画を視聴する。 ○既習の説明文(くちばし、うみのかくれんぼ)について振り返る。</p> <p><b>1年〇組 オリジナル じどう車ずかんをつくろう。</b></p> <p>○知っている自動車について発表する。 ○「じどう車ずかん」(じどう車カードを束ねたもの)をつくるための学習計画を立てる。 ○学校図書館にある自動車に関わる図鑑に触れ、調べたい自動車を各自1つ決める。(じどう車カード①の作成に向けて)</p>	<p>○「じどう車カード」の書き方 ○図鑑の読み方</p> <p>○範読後、「じどう車カード」を教師が児童に提示し、学習課題の関心を高める ○「じどう車カード」にまとめる自動車は、児童の生活に身近な「救急車」「消防車」「パトロールカー」「ショベルカー」「ブルドーザー」「移動販売車」「カーキャリア」「ごみ収集車」の8つから選ぶようにする。</p>	<p>○自動車への興味をもたせるために教科書の挿絵や自動車が動く様子が見える動画を見せる。 ○単元に入る以前から自動車の動画を継続して見せたり、掲示物に二次元コードを入れ、好きな時に動画を見られたりできるようにする。</p>
2	<p>といの文を見つげよう。</p> <p>○問いの文や出てきた自動車を確かめ、内容の大体を捉える。 ○問いの文の語尾には「-か。」があることを見つける。 ○「じどう車くらべ」の問いが「しごと」「つくり」の2つであることを読み取る。</p>	<p>○内容の把握</p>	<p>○授業支援クラウドを活用し、2つの問いを口で囲むことにより、「しごと」(赤)と「つくり」(青)について聞いていることを捉えさせる。 ○問いの文が見つからない場合は、既習の説明文(くちばし、うみのかくれんぼ)について振り返り、「-か」の文であることに気づかせる。 ○問いを確認することで「しごと」と「つくり」を読み取ることを確認させ、学習の見通しをもたせる。</p> <p>【思考・判断・表現①】観察、ワークシート ・「しごと」と「つくり」の説明の順序を押さえながら読み、教材文の内容を把握しているか確認する。</p>

3	<p>「じどう車カード①」をまとめるための ずかんを えらぼう。</p> <p>○学校図書館にある自動車に関わる図鑑を読み、「じどう車カード①」をまとめるために適した図鑑を選ぶ。</p>	<p>○学校図書館の利用の仕方 ○図鑑の読み方 ○情報と情報の関係</p>	<p>○教科書の教材文の問いを想起させ、「どんなしごとをしていますか。」「どんなつくりになっていますか。」の2つの問いについて、調べられる図鑑（図書館資料）を選んでいるか確認させる。</p> <p>【知識・技能①】 観察 ・「しごと」と「つくり」の関係に気をつけて読んでいるか確認する。</p>
4	<p>じどう車カード①を つくってみよう。</p> <p>○教科書の教材文の2つの問いとその答えとなる「しごと」と「つくり」の関係を確認する。</p> <p>○自分が前時に選んだ自動車について、図鑑（図書館資料）から「しごと」と「つくり」を読み取り、今の力で「じどう車カード①」を書いてみる。 →第8時で加筆修正していく。</p>	<p>○事柄の順序 ○情報と情報の関係</p>	<p>○「しごと」と「つくり」、「そのために」を入れることを条件にして、図鑑（図書館資料）を読みながら作成をさせる。</p> <p>○図鑑（図書館資料）は、事前に必要分コピーし、一人一部配布して調べさせる。</p> <p>○じどう車カードを書き、誤字脱字を確認したら、写真を撮り、授業支援クラウドに保存させる。</p> <p>○児童の読む力・書く力を把握し、5～7時の学習に生かす。</p> <p>【知識・技能①】 観察、じどう車カード① ・「しごと」と「つくり」の関係に気をつけて読み、カードに書いているか確認する。</p>
5	<p>バス、じょうよう車の「しごと」と「つくり」を見つけて まとめよう。</p> <p>○バス・乗用車の動画を視聴し、バスと乗用車のイメージを広げる。</p> <p>○教材文から「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>○図鑑（図書館資料のコピー）で、教材文にはないバス・乗用車の「つくり」を調べる。</p> <p>○「じどう車カード」に教材文、図鑑から読み取ったバス、乗用車の「しごと」と「つくり」を書く。</p>	<p>○内容の把握 ○重要な語句や文の選択 ○情報と情報の関係</p>	<p>○「しごと」（赤色）と「つくり」（青色）を分けて捉えるために色分けをする。</p> <p>○「そのために」が「しごと」「つくり」の2つの情報を繋ぐ役割をしていることを確認する。</p> <p>○全員同じ図鑑（図書館資料）のコピーを用いて調べることで、バス、乗用車の「しごと」と「つくり」の内容や「しごと」をするために、なくてはならない「つくり」について理解を深める。</p> <p>【思考・判断・表現①】 観察、ワークシート ・「しごと」と「つくり」の説明の順序を考えながら読み、教材文や図鑑の内容を捉えているか確認する。</p>
6	<p>トラックの「しごと」と「つくり」を見つけて まとめよう。</p> <p>○トラックの動画を視聴し、トラックのイメージを広げる。</p> <p>○教材文から「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>○図鑑（図書館資料のコピー）で、教材文にはないトラックの「つくり」を調べる。</p> <p>○「じどう車カード」に教材文、図鑑から読み取ったトラックの「しごと」と「つくり」を書く。</p>	<p>○内容の把握 ○重要な語句や文の選択 ○情報と情報の関係</p>	<p>○「しごと」（赤色）と「つくり」（青色）を分けて捉えるために色分けをする。</p> <p>○「そのために」が「しごと」「つくり」の2つの情報を繋ぐ役割をしていることを確認する。</p> <p>○全員同じ図鑑（図書館資料）のコピーを用いて調べることで、トラックの「しごと」と「つくり」の内容や「しごと」をするために、なくてはならない「つくり」について理解を深める。</p> <p>【思考・判断・表現②】 観察、ワークシート ・「しごと」と「つくり」の関係に気をつけながら読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出してまとめているかを確認する。</p>
7 本時	<p>クレーン車の「しごと」と「つくり」を見つけて まとめよう。</p> <p>○クレーン車の動画を視聴し、クレーン車のイメージを広げる。</p> <p>○教材文から「しごと」と「つくり」を読み取る。</p> <p>○図鑑（図書館資料のコピー）で、教材文にはないクレーン車の「つくり」を調べる。</p> <p>○「じどう車カード」に教材文、図鑑から読み取ったクレーン車の「しごと」と「つくり」を書く。</p>	<p>○内容の把握 ○重要な語句や文の選択 ○情報と情報の関係</p>	<p>○「しごと」（赤色）と「つくり」（青色）を分けて捉えるために色分けをする。</p> <p>○「そのために」が「しごと」「つくり」の2つの情報を繋ぐ役割をしていることを確認する。</p> <p>○図鑑（図書館資料）でも調べさせることで、トラックの「しごと」と「つくり」の内容やその関係性の理解を深める。</p> <p>○全員同じ図鑑（図書館資料）のコピーを用いて調べることで、クレーン車の「しごと」と「つくり」の内容や「しごと」をするために、なくてはならない「つくり」について理解を深める。</p> <p>○今までの学びの成果を振り返り、次時では第4時で作成した「じどう車カード①」について、改めて見直し、完成することを確認する。</p> <p>【思考・判断・表現②】 観察、ワークシート ・「しごと」と「つくり」の関係に気をつけながら読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出してまとめているかを確認する。</p>



8	<p>「じどう車カード①」のないようを見なおして、かんせいさせよう。</p> <p>○今までの学習の振り返りをする。 ○第4時で作成した「じどう車カード①」の内容を見直す。 ○教材文や図鑑（図書館資料）を読み直したり、同じ自動車を選んだ友達と話をしたりしながら加筆修正をする。 →「じどう車カード①」を完成させる。</p>	<p>○重要な語句や文の選択 ○情報と情報の関係 ○簡単な構成 ○記述の仕方</p>	<p>○本時まで教材文や図鑑（図書館資料）を読んで、ワークシートにまとめてきた内容を振り返るとともに、読んだり書いたりした時のポイントを確かめる。 ○第4時で作成した「じどう車カード①」の内容を見直し、「しごと」をするために、なくてはならない「つくり」を選び抜き、書いているか考えさせる。その際、よくまとまっている「じどう車カード①」も紹介する。 ○再度、教材文や図鑑（図書館資料）を読み直したり、同じ自動車を選んだ友達と話し合いをしたりしながら加筆修正するよう促し、「じどう車カード①」を完成させる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 観察、じどう車カード①、振り返り ・進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿って、教材文や図鑑（図書館資料）を読んでいるか確認する。</p>
9 10	<p>じどう車カード②をつくらう。</p> <p>○「じどう車カード②」にまとめたい自動車を選ぶ。 ○図鑑（図書館資料）で自分が選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について調べ、「じどう車カード②」にまとめる。 ○グループで、各自が作成した「じどう車カード②」の内容について確認し合う。</p>	<p>○重要な語句や文の選択 ○事柄の順序 ○簡単な構成 ○記述の仕方</p>	<p>○「しごと」が見つけれられない児童には、教科書に戻りその自動車ができることであることや「～のしごとをしています。」に繋がる文や語句について確かめるなどし、読みを支援する。 ○「つくり」が見つけれられない児童には、「しごと」をするときに使うのは、どの部分かを一緒に考え、「しごと」に合う「つくり」を見つけられるよう助言する。 ○全体的に読み取りが難しい児童へは、教師が用意した簡素にまとめられた図鑑のコピーを使用し、「しごと」「つくり」が書いてある場所を一緒に丸で囲ったり、書き写したりできるよう支援する。 ○自分で進められる児童は、調べたい自動車を複数決めてもよいことを助言する。 ○完成した「じどう車カード②」は写真を撮り、授業支援クラウドの「○○のじどう車ずかん」に保存させる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度②】 観察、じどう車カード② ・粘り強く、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて、学習の課題に沿って「じどう車カード②」を書いているか確認する。</p>
11	<p>「じどう車ずかん」にのせる「じどう車カード」のじゅんじょをかながえよう。</p> <p>○教科書の教材文に出てくる自動車の順序を話し合う。 ○学校図書館の図鑑では、どのような順序で自動車が出ているかを話し合う。 ○自分のたちの「じどう車ずかん」にのせる「じどう車カード」の順序を考える。</p>	<p>○順序による情報と情報の関係</p>	<p>○教科書の教材文は、身近な自動車から順に出てくるしていることを押さえる。 ○学校図書館の図鑑は、種類ごとにまとまっていて、「工事現場ではたらく自動車」や「～をはこぶ自動車」のようにしごとごとのまとまりになっていることなど、児童の気づきを発表させ、押さえる。 ○読む人にとって分かりやすい順番であることに気づかせる。</p> <p>【知識・技能①】 観察、じどう車ずかんの順番 ・事柄の順序など情報と情報の関係における理解にもとづいて、順序を考えているか確認する。</p>
12	<p>かんせいした「じどう車ずかん」のよいところをつたえあおう。</p> <p>○「じどう車ずかん」を読み合い、感想を伝え合う。 ○単元全体を振り返り、まとめる。</p>	<p>○交流の仕方</p>	<p>○授業支援クラウドを活用し、互いの「じどう車ずかん」を読み合い、感想を伝え合う。 ○単元のめあて「自動車の「しごと」と「つくり」を説明する「1年〇組じどう車ずかん」を作ろう」を確認し、単元を通して身に付いた力やできるようになったことを振り返りさせる。</p>

1年〇組 オリジナル じどう車ずかんの完成

※図書館資料の図鑑のコピーとその使用については、事前に出版社より授業時に限るという条件で許可を得ています。

## 2 本時の学習指導(7/12時間)

### 【授業づくりの基本①】

本時の目標は、「単元の目標」を元にして設定します。

○**目標**：文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ

整合

○**評価規準**：「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。

【思考・判断・表現】

【授業づくりの基本②】 評価規準は、本時の目標との整合性を図ります。

○**展開**

【授業づくりの基本③】 埼玉県では、以下の3つの項目で本時の指導案を示しています。  
※詳細は、「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料」P28を参照してください。

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 問いを想起させ、本時の課題を確認する。  クレーン車の「しごと」と「つくり」を見つけてまとめよう。		○どの自動車（バス、乗用車、トラック）も「しごと」と「つくり」を教科書、図鑑で読み取ってきたことを確認させる。  👍導入時、教師は、丁寧に児童と対話をしながら、「今、何の問いに対して教材・図鑑を読んでいるのか」、単元のねらいを明確にしています。展開の時間確保のために、教師が一方向的に話すことのないよう発問と対話を繰り返し、本時の課題へ意識を繋げています。	2
2 「しごと」と「つくり」を読み取ることを確認し、教材文のクレーン車の場面を音読する。		○クレーン車について「しごと」と「つくり」がどのように書かれているのか確かめながら、授業支援クラウドにある本文を読ませる。	3
3 教材文からクレーン車の「しごと」「つくり」を読み取り、内容を学習用端末で整理する。   	○「しごと」と「つくり」に係る重要な語や文の選択 ○情報と情報の関係	👍本時にかかわる教科書の教材文は8行です。この8行を正しく読めるように、教師は、今まで学習してきた読み方や必要な読み方について、児童と丁寧に確認しています。  「今までじどう車カードにまとめた、じょうよう車やトラックの"しごと"は、どのような言葉に着目すると見つけられましたか？」 （「・・・のしごとをしています。」の表現に気づかせる）  「クレーン車は、"何かを運ぶしごと"ではなくて、"つり上げるしごと"ですね。"つり上げる"とは、どのような動きかな？」 「クレーン車が、つり上げる"重い物"とはどんなものがあるのでしょうか？」  「"そのために"の"その"は、しごとですね。"クレーン車のしごと"のために、なくてはならない"つくり"は何でしょうね。」（"そのために"が、「しごと」と「つくり」の2つの情報を繋ぐ役割をしていることを確認する。）	10
<p>🔍<b>授業改善の視点①：学習用端末の活用</b></p> <p>教科書をデジタル化すると、何度も検討・やり直しをしながら、情報を整理することができます。 本時では、授業支援クラウドを活用して、画面上で言葉を動かしながら「しごと」と「つくり」を整理させました。 次の展開時には、図鑑のコピーを授業支援クラウドにも載せ、試行錯誤しながら、印を書き込んだり、写真を拡大したりして、確かめられるようにしました。</p>			

4 図鑑（図書館資料）からクレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り、じどう車カードに書く。

○図鑑の利用  
○「しごと」と「つくり」に係る重要な語や文の選択

○全員同じ図鑑（図書館資料）のコピー（学習端末・紙を選択させる）を使用し、クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取らせる。  
○クレーン車のも重いものを吊り上げる「しごと」に合っているのか考えながら「つくり」を丸で囲ませる。  
○「つくり」をじどう車カードに書き足させる。「しごと」も書き足しがあれば書き足させる。

10



【思考・判断・表現②】

<評価方法>

観察、ワークシート

- ・「しごと」と「つくり」の関係に気をつけながら読み、文章の中の重要な語や文を考えて選び出してまとめている児童をBとする。
- ・〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉
- ・教師が用意した簡素にまとめられた図鑑のコピーを使用し、「しごと」「つくり」が書いてある場所を一緒に丸で囲ったり、書き写したりできるように支援する。
- ・穴埋め形式のワークシートを使用し、「しごと」「つくり」に関わる語に着目できるようにさせる。

授業改善の視点②：

言葉による見方・考え方を働かせる教師の言葉がけ

児童が身に付けた読む力を十分に発揮し、自力で、クレーン車の「しごと」のための「つくり」を図鑑から読み取るためには、教師の「言葉による見方・考え方を働かせる言葉がけ」が非常に重要です。対象と言葉、使われている言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目するよう、本時の目標も踏まえて、意図的に児童に言葉がけをしましょう。

本時では、展開3で押さえた「しごと」と「つくり」の関係について、教師が個の読みの状況に応じて適切に言葉がけをしていました。そのことによって、多くの児童を評価規準Bに変容させることができていました。



授業改善の視点③：評価

評価方法や見取る児童の具体的な姿を教師が明確にし、評価場面で評価を確実にいきます。その際、見取るために必要な時間の確保も重要です。また、評価を1単位時間内で完結するのではなく、単元全体として蓄積し、指導・学習改善のサイクルの中で児童一人一人の学力を伸ばすことに評価を生かすことが重要です。

5

5 読み取った内容を発表する。



6 学習のまとめをする。

7 学習の振り返りをする。



3

8 次時の学習について確認する。

○完成した児童については、挿絵にどんな「つくり」があるのか書き込ませながら、他のつくり気づかせる。  
○TV画面または、授業支援クラウドにて、じどう車カードの見直しポイントを提示し、読み直しができるようにさせる。  
○図鑑から読み取ったことを発表させ、全体で共有させる。  
○児童それぞれが書いたじどう車カードをもとにまとめとさせる。  
○驚いたこと、分かったこと、頑張ったこと、できたこと、伝えたいことの視点で書かせる。

10

👍 発達の段階を考慮しながら、1年生でも「振り返り（学びの捉え直し）」を記述式で行っていました。時間も十分に確保できる授業展開でした。児童は、読み取ることができた情報や自分の読む力の向上について自信をもち、次時への意欲を高めていました。

○第4時で作成したじどう車カード①は、読む人にとって分かりやすく書けていたのかどうか問いかけて、今まで学習したことを生かして、次回、じどう車カード①の内容を見直すことを確認させる。

2